

平成19年11月
ネットワーク全労生

中央討論集会で活発な討議 相互理解・連携を強化

全国労働組合生産性会議・事務局長
(基幹労連・顧問) 西澤 昇治郎

「雇用の確保・拡大」、「労使の協力・協議」、「成果の公正分配」の生産性三原則を柱とする生産性運動を労働組合の立場から実践するための中核組織として結成された全国労働組合生産性会議（略称：全労生、31産業別労働組合、約500万人）は、10月16日（火）に2007年度第2回中央委員会を開催し、下期活動計画および役員交代が確認された。

役員交代では、議長の中島悦雄氏（電力総連・前会長）、副議長の田邊敏行氏（電力総連・前会長代理）が退任され、後任の議長には落合清四氏（UIゼンセン同盟・会長）、副議長には南雲弘行氏（電力総連・会長）が就任された。

中央委員会終了後、引き続き17日（水）までの2日間、2007年度の中央討論集會を開催した。本集會では、今年度の年間活動統一テーマ「生産性三原則の再認識と課題への挑戦～真にゆとりと豊かさのある公正で安全な社会をめざして～」のもと、研究・活動成果報告として、中小企業対策部会（部会長：全労生副議長 徳田孝蔵・UIゼンセン同盟副会長）の「中小企業の格差是正に関する課題」、「21世紀のワークスタイルのあり方と労働組合の役割」特別委員会（委員長：全労生副議長 桜田高明・サービス・流通連合会長）の2つの活動成果報告を行った。

また、専門部会においてこれまで研究・検討してきた調査研究内容や、今後取り組むべき課題として、「連結経営（決算）下における公正な分配と労働組合のあり方」、「生産性運動の具現化に向けた取り組み～グッドプラクティスを探る」、「サービス分野の生産性向上と労働組合の役割」の3つを分科会テーマに取り上げ、参加者相互の活発な討論を行い、今後の活動に生かしていくこととなった。

全労生は、加盟産別・単組、および各地方労生との相互理解を深めながら、連携を強化し、落合新議長のもと、引き続き生産性運動の推進に向けた取り組みを展開していきたい。皆様のご理解とご協力を宜しく願います。